

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（主幹等）	30年 月 日
2次評価日（課長等）	30年 月 日

事務事業評価表（補助金等）

1 事業名	「第4次総合計画」に沿って整理した事務事業名		
2 担当部課	評価表の所属・作成者		
3 事業概要	目的体系	基本目標	#N/A
		政策	「第4次総合計画」に沿って整理した体系
		事務事業	#N/A
		予算科目	#N/A 業務委託
		実施義務	岡谷市がこの事業を実施しなければならない根拠（国の法令など）
	根拠法令等		

●事業の内容（D0）

4 補助等の内容		* 補助金、負担金、交付金の具体的な内容	
① 性質	性質：補助金、負担金、交付金	② 期間	年度 ~ 年度
補助金の種別	種別：団体育成補助、イベント補助な	③ 対象	
④ 制度の内容			
⑤ 積算方法	補助等の額を決定する積算根拠 (例) 補助額 = 必要経費 (上限額5万円) × 1 / 2		
⑥ 期待される効果 (最終的な意図)	「この事業の受益者 (この事業により便益を受ける人、この事業がなくなると困る人) の		

5 補助等の実績

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 件数 (件)				
予算件数				
実際の支出件数				
執行率				
② 金額 (円)				
予算額				0
財源				
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源 (負担割合) の説明				
実際の支出金額				
予算執行率				
支出額の前年度比		#DIV/0!	#DIV/0!	

①件数
②金額
平成27年度～平成29年度は決算額
平成30年度は当初予算額
平成30年度に新規の補助金が予定される場合も記載する

③ 29年度の交付先	交付先の団体名など
------------	-----------

●事業の評価 (CHECK)

6 妥当性評価		* 妥当性 = 行政がこの事業を行う必要性はあるか。	妥当性 (1次判定)	
評価項目		はい	いいえ	
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。				各項目で、はい=1 いいえ=0とし、 合計 5点=高い、 合計 3~4点=標準 合計 0~2点=低い
② 補助等の効果は広く市民に還元され、特定団体の既得権益にはなっていない。				
③ 全ての対象者に交付している。				
④ 補助等の基準を明確に定め、市民に周知している。				
⑤ 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、補助等の内容に反映している。				
⑥~⑩は、補助金の対象が特定の団体に限定される場合に回答		妥当性 (2次判定)		
⑥ 補助対象団体では構成員に会費負担を求めており、自主財源を確保している。				各項目で、はい=1 いいえ=0とし、 合計 5点=高い、 合計 3~4点=標準 合計 0~2点=低い
⑦ 補助対象団体の会計において、市の補助額を上回る繰越額は生じていない。				
⑧ 補助対象団体の事務局は独立しており、市は事務的な支援を行っていない。				
⑨ 補助対象団体の事業実績、決算状況を把握している。				
⑩ 補助対象団体が補助金を目的どおり使用したか、用途を検証している。				

7 有効性評価		* 有効性 = 成果指標 (項目7/住民の満足度) が向上しているか。	有効性	#DIV/0!
評価項目		はい	いいえ	
① この補助金等が属する施策において、この補助金等の優先度が高い。				各項目で、はい=1 いいえ=0とし、 合計 5点=高い、 合計 3~4点=標準 合計 0~2点=低い
② 補助等の目的が未達成で、今後も継続することで成果が向上する余地がある。				
③ 他の方法と比べて、現金を直接給付する方法が最も効果的で低コストである。				
④ 補助団体等において、市が補助等を行った目的が達成された。				
⑤ この事業の利用者が増加した。	補助・交付件数 前年度比	#DIV/		

●改善の内容 (ACTION)

8 具体的な課題と改善	
課題	(補助等の制度を有効に活用する上で、現在課題になっていること)
	事業の成果を高めたり、少ない費用で大きな効果をあげていく上で、課題等になっている
改善方法	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容)
	上記で把握した課題を解決するための、具体的な改善内容と改善時期
	改善開始時期

●次年度の計画 (PLAN)

9 次年度の方針	この事業に関する次年度の方針
----------	----------------